第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ヤエヤマタカチホヘビ

Achalinus formosanus chigirai Ota et Toyama, 1989

太田英利（兵庫県立大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：太田英利，2026．ヤエヤマタカチホヘビ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 78-82．

Citation: Ota, H., 2026. *Achalinus formosanus chigirai* Ota et Toyama, 1989. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 78-82.

有鱗目 Squamata　タカチホヘビ科 Xenodermidae　　日本固有

ヤエヤマタカチホヘビ

***Achalinus formosanus chigirai* Ota et Toyama, 1989**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧ⅠB類（EN）　B1ab

基準 A:　—	基準 B:　EN	基準 C:　—	基準 D:　—	基準 E:　—

B1．出現範囲が 5000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、5 以下の地点に限定されている。
【地点数】5 地点以下
生息に適した森林が範囲が縮小し、生息地が分断されている。
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
森林伐採や土地造成、舗装道路・側溝の敷設などによって、本種の好適生息環境は狭まってきており、その一方で潜在的な捕食者、餌のミミズをめぐる競合者である外来種オオヒキガエル、キジ、インドクジャクなどの侵入、増加は続いており、生息状況は悪化していると思われる。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

八重山諸島の石垣島と西表島の固有亜種で、常緑広葉樹の自然林や回復の進んだ二次林の林床とその周辺に生息。乾燥に弱く、小型で移動能力も低いため、森林伐採や土地造成、舗装道路・側溝の敷設などが、生息地の縮小、分断を引き起こしていると考えられる。このほかとくに石垣島では、外来性動物であるオオヒキガエルやキジ、インドクジャクの侵入・増加にともなう、これらからの捕食圧やエサ（ミミズ）をめぐるこれらとの競合の影響も懸念される。

基礎情報

【形態】

頭胴長 250～410 mm ほどの細長いヘビ。体鱗は最外列のものも含めて明瞭なキールをもち、胴中央で普通 27 列、まれに 25 列に並ぶ。腹板はオスで 159～167 枚、メスでは 179 枚前後。尾下板は左右に二分せず、オスで 95～97 枚、メスでは 72 枚前後。頬板と眼前板は癒合し、さらに前額板とも癒合している。全身の鱗の表面が、虹色の光沢を帯びる。背面は黒褐色で、正中部に黒色の縦条がある。腹面はやや黄味がかったクリーム色ないし淡灰色。

【生活史】

発見例が少なく不明な点が多いが、8 月初めに、全長 25 mm 足らずのふ化幼体のものと思われる乾燥死体が確認されており、おそらくこの時期がふ化期だと思われる。これまで日中は物陰や鍾乳洞内に静止した状態で見つかる一方、夜間や早朝には地表を移動しているところも観察されており、夜行性の傾向が強いと思われる。餌としてはミミズを食べていた 1 例が知られるのみ。

【生息環境】

発見例が少ないため詳細は不明だが、皮膚が薄く乾燥に弱いことから、タカチホヘビ属の他種と同様、照葉樹の自然林や回復の進んだ二次林などの林床、石灰岩植生内など、一年を通して湿潤な場所がおもな生息環境と思われる。実際、例数は少ないが、これまでの発見のほとんどはこうした湿潤な場所やその周辺から記録されている。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林 【陸域_平地部】森林
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域, (7) 島嶼地域

【分布域】

八重山諸島の石垣島と西表島に分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

本亜種の分布の知られる 2 島それぞれの中でも、土壌の乾燥した場所、例えば人間の居住地や畑地、牧草地、低木林、海岸植生などのほとんどでは生息は考えにくく、分布範囲は常緑広葉樹の自然林や回復の進んだ二次林およびその周辺に限られると思われる。

【生息地の現況】

本種の分布する石垣島と西表島それぞれで、湿潤な土壌を有する場所はここ数十年の間に狭まってきており、その一方で潜在的な捕食者、餌のミミズをめぐる競合者である外来種オオヒキガエル、キジ、インドクジャクなどの侵入、増加は続いており、生息地の縮小、分断が進行中と思われる。

【個体数の現況】

生息に適した場所の縮小から個体数が減少傾向にあるのは間違いないが、具体的な数値等は不明。

存続を脅かす要因

宅地や農耕地拡大のための土地の造成、森林の伐採が土壌の乾燥化を招き、存在を脅かす主要因と考えられる。タカチホヘビ類は運動能力が低く乾燥や高温に弱いため、舗装道路や側溝の敷設により簡単に個体群が分断され、局地的な消滅が生じることも考えられる。また、とくに石垣島では、潜在的な捕食者であり競合相手とも考えられる外来種オオヒキガエル、キジ、インドクジャクの侵入、増加が大きなインパクトをもたらしていることが強く懸念される。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，土地造成，交通インフラ建設，競争/競合（外来種による）
	（現在）	森林伐採，土地造成，交通インフラ建設，競争/競合（外来種による）

特記事項

台湾には基亜種タイワンタカチホヘビ（*Achalinus formosanus formosanus*）が固有分布する。基亜種であるタイワンタカチホヘビはヤエヤマタカチホヘビよりはるかに大型（最大で全長約 850 mm）で、生息環境も大きく異なっている（生息地は標高 1,500～3,000 m の山地に限られる）。これらのことから今後の研究の進展にともない、後者が八重山諸島固有の独立種に再分類される可能性が考えられる。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	ヤエヤマタカチホヘビ	*Achalinus formosanus chigirai*	VU
第４次 2019：	ヤエヤマタカチホヘビ	*Achalinus formosanus chigirai*	VU
第４次 2018：	ヤエヤマタカチホヘビ	*Achalinus formosanus chigirai*	VU
第４次 2017：	ヤエヤマタカチホヘビ	*Achalinus formosanus chigirai*	VU
第４次 2015：	ヤエヤマタカチホヘビ	*Achalinus formosanus chigirai*	VU
第４次：	ヤエヤマタカチホヘビ	*Achalinus formosanus chigirai*	VU
第３次：	ヤエヤマタカチホヘビ	*Achalinus formosanus chigirai*	NT
第２次：	ヤエヤマタカチホヘビ	*Achalinus formosanus chigirai*	NT
第１次：	ヤエヤマタカチホヘビ	*Achalinus formosanus chigirai*	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【沖縄県】準絶滅危惧(NT)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

指定なし

参考文献

- 千木良芳範，2005．ヤエヤマタカチホヘビ．沖縄県文化環境部自然保護課（編），改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）－レッドデータおきなわ－，pp. 124‐125．沖縄県文化環境部自然保護課，那覇．
- Ota, H. and M. Toyama, 1989. Taxonomic re-definition of *Achalinus formosanus* Boulenger (Xenoderminae: Colubridae: Ophidia), with description of a new subspecies. Copeia, 1989(3): 597–602.
- Ota, H. and M. Toyama, 1989. Two additional specimens of *Achalinus formosanus chigirai* (Colubridae: Ophidia) from the Yaeyama Group, Ryukyu Archipelago. Jpn. J. Herpetol., 13: 40–43.
- 高良鉄夫，1978．西表島（沖縄）産タカチホヘビ属の一種（予報）．爬虫両棲類学雑誌，7(4): 92．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Achalinus formosanus chigirai has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Achalinus formosanus chigirai* is listed as EN under criteria B1ab.

B1. Extent of occurrence estimated to be less than 5,000 km², and estimates indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at five or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest
Threat types:	Logging and wood harvesting, Land development, Transportation infrastructure construction, Competition (with alien species)
Law designation status for conservation	―





執筆者:	太田英利（兵庫県立大学）
Author:	Hidetoshi Ota

公表年月：2026 年 3 月